

# 生活に支障あれば矯正も

?

上顎より下顎が突出して  
見た目が気になってしまおう…

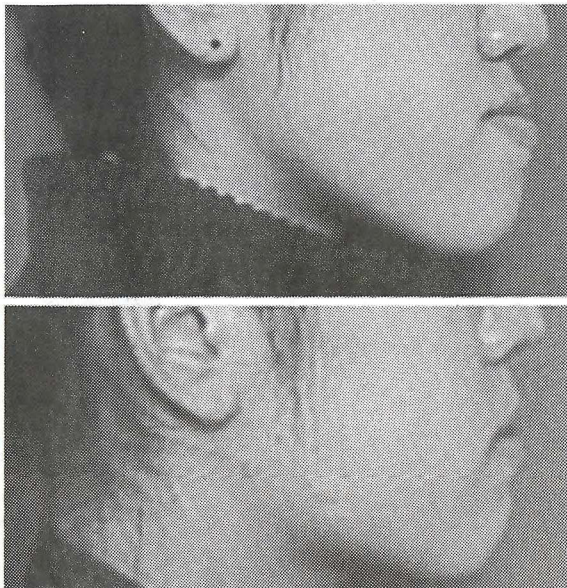
上顎に比べて下顎が突出した受け口になっていると、歯のかみ合わせや発音に問題を生じる他、見た目を気にする人もいる。手術で矯正できるので、日常生活に支障を来すようなら口腔（こうくわう）外科を受診するところ。

## 健保は適用

単に歯並びが悪くて受け口になるケースもあるが、骨格性下顎（かがく）前突症といって、骨格そのものに起因している場合は矯正手術で治療でき、健康保険も適用される。手術法について、昭和大学歯学部（東京都）口腔外科

の新谷悟教授は次のように説明する。

「骨格性下顎前突症の人は、受け口を気にして習慣的に無理に下顎を後ろに引っ込めるような動きをしています。あるいは、受け口に適應するために上顎の前歯が外側に、そして下顎の前歯が内側に倒れ込むような歯並びになっています。このため、まず手術前にこの病気の歯列矯正の認定医に歯並びを矯正してもらいます。それには半年から1年かかり、歯並びが矯正された時点で下顎の骨を人工的に切って下顎の歯の部分の奥にずらすのです」



受け口（上）と手術後（新谷悟・昭和大学歯学部教授提供）

## 受け口手術 骨の成長止まる時期に

逆に上顎が引っ込んだ骨格のケースでは、上顎の骨を切断して前にずらす。

まれにまひ残る

これらの手術を組み合わせたこともある。いずれにせよ、手術時期は顎の骨の成長が止まる時期が適している。

「女性は16歳以上、男性では18歳以上を目安にするといいでしょう。手術そのものは2〜3時間で済み、手術後に上下の歯を固定してかみ合わせを調整するため、1週間前後の入院が必要ですよ」

手術後の固定はかつて金属製ワイヤで行われていたため調整後にそれを外す手術を要した。最近では昭和歯科大学をはじめ、2度目の手術が必要ない吸収性プレートという素材を用いる施設が増えている。

「この分、肉体的にも時間的にも負担が少なく治療できるようになっています。ただし、まれにこの手術によってあごの神経まひが残るケースがあります」

希望者はこうしたマイナスイメージがあることも理解した上で、口腔外科で相談してみるとうい。

（メディアカルトリビューンII 時事）